

## 会 議 録

会議の名称	第25期東村山市青少年委員の定例会（第20回）				
開催日時	平成26年11月13日（木）午後7時00分～9時00分				
開催場所	いきいきプラザ4階 教育委員会室				
出席者 及び欠席者	<p>●出席者：</p> <p>（委員） 藤澤功明会長・森田明美副会長・木村一樹委員・小島恵子委員・佐々木悟子委員・鈴木史秋委員・多田啓子委員・宮崎貴幸委員・山本智治委員・横田昇委員・横山大吾委員・渡邊いつ子委員</p> <p>（市事務局） 社会教育課：平島課長・朝岡係長・石井</p> <p>●欠席者：</p> <p>（委員） 児玉光昭委員・谷橋由樹委員</p> <p>（市事務局） なし</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可 の場合は その理由	/	傍聴者数	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 青少年委員会長 挨拶</li> <li>2 社会教育課長 挨拶</li> <li>3 協議事項</li> <li>4 活動報告</li> <li>5 事務連絡</li> <li>6 事務局より</li> </ol>				
問い合わせ先	教育委員会教育部社会教育課社会教育係 担当者名 朝岡・石井 電話番号 042-393-5111（内線3514） ファックス番号 042-397-5431				
会 議 経 過					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 青少年委員会長 挨拶</li> <li>2 社会教育課長 挨拶</li> <li>3 協議事項           <p>平成26年度「輝け！東村山っ子育成塾」第7回「世代間交流」・第8回「まとめとふりかえり」等について</p> <p>第7回「世代間交流」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●・日程表に基づき、概要説明を行う。特にスポーツ吹矢の射順の説明では実際に委員を動かし、参加者の動きについて確認を行った。</li> <li>●・プログラム責任者をはじめとして、当日の各係や担当を決定する。</li> <li>●・射順の入れ替わりの目印とする為、待機時に着座となる「審判（4番手）」、「指導&amp;審判（協会）」、「競技者（2番手）」については席に表示を準備してもらいたい。</li> <li>●事務局               <ul style="list-style-type: none"> <li>・了解した。</li> </ul> </li> <li>●・協議終了後に“ぞうきんがけ”とあるが、体育室の床には特殊なワックスを使用している場合がある。かえって床を傷めてしまうのではないかと。</li> </ul> </li> </ol>					

●事務局

- ・スポーツセンター側に諒解を取っており、問題はない。
- ・駐輪場については当日、剣道の大会があり、臨時に場所を設けていただいているとのことだが、混乱を避ける為、駐輪場に地図も参加宛の通知に同封してほしい。

●事務局

- ・了解した。

第8回「まとめとふりかえり」

●事務局

- ・前回の定例会にて依頼のあった「平成27年カレンダー育成塾版」について、光沢のあるものが良いか。それとも記入ができるものが良いか。
- ・前は記入ができるものとしたが、今回は光沢のあるものとした方がどうか。  
(異議なく了承された)
- ・定例会の冒頭において、衆議院議員選挙が実施された場合、市として事務局職員が選挙事務に従事する都合上、育成塾への参加が難しい場合があるとの発言があったが、いかなる理由があったとしてもそれは認められない。予定どおり実施していきたいと考えるがどうか。  
(協議の結果承認された)
- ・前回は申し上げたとおり、当日はリーダーの活躍する姿を温かく見守ってほしい。そして困っている様子が認められるのであれば、快く手を差し伸べてほしい。

次年度の育成塾実施回数

- ・本年もあと2か月となり、次年度の育成塾についての準備を始める時期となってきた。活動内容については後に議論を行っていくが、今回は回数について決定したいと考えている。平成16年度の第1回よりこのかた年8回の実施を貫いているが、実施回数について規定はない。その年度の実情に合わせて回数を決めている状況である。本日はこの実施回数だけでも決定したい。委員各位の忌憚のない意見を聞かせてほしい。
- ・回数の決定に関連して今年度感じたことは各実施日に学校行事が重なったことである。キャンプの出欠についても曖昧な回答が多かった。近年は5月には公開事業も多く、運動会もあり、キャンプを6月にしたという経緯がある。子どもを取り巻く状況を鑑み、6月開始としてはどうか。
- ・8回のままで良いのではないか。
- ・毎年、8月の活動が平日である為、出席できず、心苦しく思っている。
- ・一年全体を考慮し、8回実施をどう考えるかが焦点であると考えます。
- ・過去に例がないことであるので、試みに次年度は7回実施とし、様子を見てはどうか。
- ・参加者の活動の選択肢として8回実施を保っていききたい。
- ・6月開始として7回実施、従前のおり8回実施、どちらも長所があり、捨て難い。
- ・我々青少年委員が活動実施回数をどう捉えるかということだ。
- ・深い問題である為、年内に決定することとしてはどうか。
- ・野外活動実施の観点から考えると気候の良い5月をはずしてしまうのはどうか。また、活動の連続性を考えれば一月に一回の実施が良い。
- ・やはり8回実施が良い。
- ・7回実施で試してみるのもよいのではないか。
- ・活動内容ではなく、何月を削るかという話になる。
- ・議論百出といったところだが、今後の予定を考えるとどうしても今日回数を決定したい。多数決としたいがどうか。  
(異議なく了承された)
- ・多数決の結果、次年度は全8回実施に決した。活動内容の決定にあたっては委員各位の有意義な議論に期待したい。

4 活動報告

5 事務連絡

6 事務局より

以上